

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nicholsピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会 | Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

<第54号の訂正>

・前号で、月輪熊の捕殺数の倍率を2.08倍と書きましたが、 $1898/771=2.46$ 倍、の間違いでした。訂正させて戴きます。

[1] <統計での月輪熊U.thibetanusと熊U.arctosの捕殺数の数値は正確なのか>

年 度	捕獲頭数	出 典 な ど
1938	227	
1939	226	
1940	218	
1941	264	
1942	264	
1945	278	
1946	314	
1947	372	
1948	711	
1949	538	
1950	363	
1951	457	
1952	512	1969年刊 北海道の猟政 北海道
1953	572	
1954	502	
1955	368	
1956	649	
1957	517	
1958	298	
1959	440	
1960	427	
1961	380	
1962	868	
1963	381	
1964	794	
1965	511	
1966	666	
1967	479	
1968	494	
1969	523	
1970	636	
1971	635	北海道生活環境部自然保護課資料
1972	361	
1973	463	
1974	649	
1975	377	
1976	364	
1977	409	
1978	339(396)	大岡・門崎ほか 北海道におけるヒグマの捕獲量に 関する調査について(II)
1979	377(437)	
1980	334(408)	
1981	333(370)	北海道開拓記念館研究年報 1985
1982	316(419)	
1983	381(308)	
1984	274(315)	
1985	258(277)	筆者ら調査
1986	387(445)	
1987	185(217)	
1988	228(289)	
1989	149(184)	
1990	162(221)	
1991	192(239)	

(注) 一九九〇年までのカクコ内だけは会計年度で通年の統計である。一九八八年度は一月～十二月までの捕獲数である。一九七七年～一九八五年は一九五四年～一九五五年の暦年か会計年度か不明。一九五五年～一九八〇年は、会計年度、他はすべて暦年であるが、一九七七年～一九八五年

門崎は恩師の北大名誉教授犬飼哲夫先生と、1978年～1991年迄の14年間、北海道での熊の年度別捕殺頭数を、毎年猟師や市町村担当者に直接問いただす方法で、年度別捕殺頭数を検証した。対象年度の括弧内数値が道庁調査、無括弧の数値が犬飼・門崎の調査数値である。そこで識った事は、道庁の数値は過大であることを識った。理由は、例えば、2人で1頭の熊を獲った場合、各人が1頭ずつ獲ったと報告している事例がある事による。調査対象年以外の年度の数値の信ぴょう性に付いては検証の仕様がないので分からない。ただ、このような事例があると言う事だけは留意すべきと思う。

<九州の月輪熊は絶滅したのか>

門崎が収集した、九州での月輪熊に関する情報は、1932年以降（今日までの84年間）に、捕獲が3例、そして1999年以降に姿の目撃が2例ある。

いずれも九州中央部付近にある「祖母ヶ岳・傾山カマキヤマ山系、標高は1,600m～1,700m」での記録である。

<捕獲記録>

- ① 1932年(84年前)に、大分県側で捕殺した（熊の性別等は不明で有る）。
- ② 1941年(75年前)に、宮崎県側で捕殺した（熊の性別等は不明で有る）。
- ③ 1987年(29年前)11月24日、午前11時頃、大分県 緒方町カマキヤマ 上畑の佐藤辰美カマキヤマ、59歳(イシ猟中に)、九折川ツラカワ沿いの山中の標高600mの自然林で、猟犬を追ってきて4～5m先で立ち上がった熊を射止めた。体長141cm、体重74.5kg、推定3～4歳の雄。胸に三日月形の白毛がある。①～③はいずれも、1987/11/26の新聞「赤旗」による。
(以後捕獲例はない)

<目撃例>

- ①1999年5月8日、遭難者救助で山に入った救助隊員4名が、傾山北側(大分県側)の、アオスズ谷下流で、子熊2頭を連れた母子3頭を目撃した。1999/5/8新聞「赤旗」による。
- ②2000年3月19日、大分県 緒方町カマキヤマで、砂防現場に車で向かう林道で、複数の作業員が、母子2頭(母は体長約1.5m、子は約70cm)が、車の前5m先をのし歩き、雑木林の中に消えるのを見た(渡辺紘三、59歳、談)、2000/3/19/北海道新聞による。

<他に、足跡の目撃>

- ① 1983年2月24日午前11時頃、宮崎県高千穂町の親父山カマキヤマ(標高1,644m)の、林道の標高1,100m付近で、10cm程の積雪に、林道から沢にかけて20m程、熊の足跡(横幅10cm、縦幅「踵～爪先」15cm)、5本の爪痕もある。を同町役場の職員、佐藤久生36歳と大賀茂農夫29歳が見つけ、写真にも撮した。1983/2/25/朝日新聞による。

(丁)